

中国 香港特別行政区 UWC香港校 丸山 さん  
留学期間：H28.9～H30.6（2年間）

UWCでの学校生活も2年目。香港での留学期間も残り数ヶ月となった。生活に慣れてきた今でも、常に新しいことに挑戦できていることはこの環境の良いところではないかと思う。

先月、学校でProject Weekという期間があり、生徒たちはそれぞれグループにわかれて1週間奉仕活動などを行った。昨年私は、タイで子どもたちに英語を教える活動をしとてもいい体験だったことを覚えている。様々なプロジェクトがある中、私は香港で行われるVerbatim Theatreと呼ばれる活動に参加した。Verbatim Theatreとは、インタビューを行い、その人たちの言葉を使って演劇をするというものである。私は演劇を全く体験したことがなく不安な部分もあったが、昨年のVerbatim Theatreの発表に感激を受けたこととそして何より今年のトピックが興味深い分野だったこともあって参加することに決めたのだった。



私たちがインタビューしたのはLGBT+コミュニティの方々だった。私が日本に住んでいるとき、“LGBT”という言葉はあまり馴染み深いものではなかったと思う。LGBT+とはレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、またその他の性の多様性を表す言葉である。LPCUWCに来てからは、学校内のオープンな環境のおかげで友達やコミュニティの中で話すことも多い。

LGBT+コミュニティの多くの方々インタビューをした中で気が付いたことは、このマイノリティグループが多様性にあふれるコミュニティであるということだ。“ステレオタイプ”に当てはまると自身で感じている人もいれば、それに当てはまらずコミュニティと切り離された感覚を持つ人もいる。強い差別を受けてきた人と、差別にあったことがない人。自分を“LGBT+”を使って表現する人や、自分を“LGBT+”でラベル付けするのが好きでない人。それぞれの人間が違った経験や考え方を持っている。それと同じように、性的指向や性自認もそこにいる人の数だけ違うのだと思う。“違う”ということは当然のことであり、差別されるべきではないことなのだ。

私たちは、香港の中心地にある劇場と学校のホールで2回のパフォーマンスを行った。“Don't ask, Don't tell (聞くな、伝えるな)” このproject weekの間、何回も聞いたフレーズである。インタビューを受けてくれた方々の勇気のおかげで私たちのパフォーマンスは成り立っている。そして、私たちのパフォーマンスを観て、影響された人たちがいる。LGBT+であろうと異性愛者であろうと関係なく、私たちは同じように人を愛すのだということを、伝えることができた。また、パフォーマンスという新しい形での社会貢献の経験ができたことは、私自身の表現や活動の幅を広げてくれたと思う。

